

# 平新報

發行日 五日 發行  
編輯部 山形縣平野町三丁目  
發行所 平野町三丁目  
電話 五二五  
定価 毎部五錢

## 菊薫る明治の佳節に

### 酒井校醫表彰の式典

#### 勤績實に四十星霜 全國に於ても稀有

酒井國三郎翁、磐城中等學校校醫勤績四十周年表式式は、去る十一月三日、酒井校醫の祭日を以て同校講堂に於て午前九時より、いと厳肅裡に舉行された。



先づ小樽山學校校長開會の辭に續いて、別項の如き式辭ありて同窓會長關内正一氏の謝辭、別項在校生徒徒總代松田浩一君の謝辭、來賓總代として醫師根本壯次郎氏の祝辭、諸務部長の祝電(齋藤敬頭)、終つて別項の如き、酒井先生の挨拶ありて、實に滿堂謝恩といふ床しき盛況に包まれた。尚午後七時より住吉屋本店に於て祝賀會に移り、關内同窓會長の開會挨拶、酒井先生の謝辭あり、其間、別項の如き村上清一氏より同窓會に寄せた謝恩の書狀(齋藤敬頭披露)あり、出席者別項の如く七十名を超えた。

## 校友會長式辭

本日明治節の佳節に、生の表式式を擧ぐるを得、本校校醫酒井國三郎先

## 同窓會長の謝辭

本日明治節の吉辰を以て、母校校友會と共に、母校酒井國三郎先生四十周年勤績表式式を擧げ、茲に卒業生一同を代表し、記念品を贈呈し、一言謝恩の言葉を申上る事は誠に光榮と存する次第であります。先生は隣村草野村の名家に人となり、若冠にして醫學に志を立て今日に至るまで、北帝國大學の前身たる第二高等學校醫學部に學び、明治二十三年同校を卒業して醫學士としての資格を得られたのであります。御歸郷後は草野村に於て開業致しまして後間もな

な、當時親しく之を目撃せし者皆深く感動せし所なりしと聞く、先生の至誠達天に通じ、村上氏は負傷をなし病床に呻吟すること實に七年の長きに及べりといふ、かくの如きは從來の試合上末會の事にして、當時心驚愕せる所なるべく、

## 偶感

酒井君影  
咲くや菊我れ校醫たる事  
高月の社や榮えて萬紅葉  
菊の影や校庭高く日章旗  
今に當事者の意中を察し  
此の間に於ける先生の努力は、實に筆舌の能く盡すべくもあらざる朝に夕に病床を見舞はれ、あらゆる醫術を施して餘す所

## 酒井國三郎先生挨拶

本日の佳辰を以て不肖私に爲る此盛大なる式を御舉げ下さり、誠に身に余る光榮と存じます。願ひは本校創立以來、同窓會諸君の熱誠なる御指導と御後援の賜も、深く信ずる次第であります。又只今は校長先生始め皆々様より私に對する過分の謝辭を賜はり、衷心慚愧に堪へません、加之、貴重なる記念品を頂き、誠に感佩の至りに存じます。

## 出席者

關内 正一 野崎喜八郎  
市井 茂 星 恒明  
新田目春松 本田 忠綱  
吉田 金作 松本 榮一  
千葉 右近 藤山 隆  
梅原利三郎 山崎忠兵衛  
矢野泰次郎 市原明太郎  
鈴木健太郎 正木貞治郎  
熊谷 保高 門馬倉次郎  
松井 深 中野 應次  
大河内一郎 渡邊 久  
大和田豊吉 齋藤 榮一  
山崎 宣吉 梅森 榮  
廣田 徳行 近藤 廣記  
橋本芳太郎 菅野 貞雄  
(二面(續))

## 當夜の出席者

關内 正一 野崎喜八郎  
市井 茂 星 恒明  
新田目春松 本田 忠綱  
吉田 金作 松本 榮一  
千葉 右近 藤山 隆  
梅原利三郎 山崎忠兵衛  
矢野泰次郎 市原明太郎  
鈴木健太郎 正木貞治郎  
熊谷 保高 門馬倉次郎  
松井 深 中野 應次  
大河内一郎 渡邊 久  
大和田豊吉 齋藤 榮一  
山崎 宣吉 梅森 榮  
廣田 徳行 近藤 廣記  
橋本芳太郎 菅野 貞雄  
(二面(續))

水道の取替の急なるを叫ばれた一事であります。その御熱心なる主張が認められて今日の此立派な水道が完成したのであります。その御功績に對して町民舉つて甚大なる敬意を表してゐるのであります。私は斯の如く先生の國家的或は地方自治發展の爲に盡された御功績に對して萬腔の敬意を表してゐた一人であります。先生が我母校に校醫として職を奉せられたのは去る明治二十九年であり、爾來春風秋雨實に四十星霜の永い間であり、此の間に卒業の式典を重ねること三十有六回、その卒業生の

せんぞ。先生なほ猥褻として壯者に劣らず、益々自重自愛永く本校のため、指導鞭を以て謝辭の御挨拶とします。

昭平 平野町  
同窓會長 關内正一  
(本報の掲載は在實記事)

高清水勇助 大橋 秀冬 豊田 欽哉 渡邊 恒夫 下田 尚方 山名 隆真 根本 源壽 山本 三郎 大村 隆行 吉田 泰三 小林 勝入 芝崎 新吉 樋口 重太郎 中柴 光泰 吉岡 屋敷三 庄司 善登 大淵 彌次郎 河村 鏡

### 酒井先生へ寄せた 村上氏の書簡

謙啓 時下晩秋之候御尊 養様には益々御健勝之候 奉答候儀 借而今般母校よりの御案 内には依れば来る十一月三日 日明治節の吉辰を以て御 尊養様の多年御勤勞の顯 彰式を舉行並に祝賀會を 開催の趣に御目出度き 限り茲に謹而御祝辭奉申 上候

### 壯烈なる昇段の競技 磐城柔道有段者會審査 十一月八日於磐中道場

回顧すれば御尊養様には 磐城柔道有段者會とす 至る迄滿四十年學校 として至誠其職に當り功 績之著大なるは常に感激 措く能はず特に小生は大 正三年縣下中等學校武道 大會に於て試合中不慮の 重傷を負ひ福島三郡共立 病院に入院する事半歳、 更に快癒の見込なき危篤 之状態にて歸郷致す事之 相成爾來病床に呻吟する 事數年、其間朝夕に懇 切極まる御治療を施され 今日壯健の身に相成奉 職し得らるゝに至りしは 偏に御尊養様の長日月之 間慈善的に献身的に御養 育を蒙り得せられし賜を 御仁慈厚恩を思ひ申候

### 川柳募集

平新報新年號 題 新年雜詠(五句時) 實氏(二十六回)が後任局長 締切 十二月十五日 願先 平町一丁目 綿引東天紅氏宛

實は小生も御尊養様之此 玉川村農會會長は副會長遠藤 氏の御一度も席上に出席致 されし所憶ふ一層も申上度候 思ひ新年快方に向ひ申候

### 音信交換

渡清以來一年有半常に御 西村屋藥舗主 鈴木堅助翁長逝 八日菩提院にて葬儀執行

平町 二丁 目西 村屋 主鈴木 助翁 和五 年十月東京に於て打撲傷 を受け、それが因をなし



て爾來南町の別邸で静養 中五日早晩長逝された

### 同窓動靜

平新報(十六回)は湯本郵 便局長を辭したため、令弟 實氏(二十六回)が後任局長 として十一月一日磐崎村の 自宅にて永眠された。

### 知人消息

江尻中氏重態 鹿島村江尻中氏は永らく 餘慶中であるが傾日來より 重態に陥る。

### 平地方刊行物

無沙汰勝しく御尊養様被 下度候 御變り御座なく候哉御伺 申上候 平新報(十六回)は湯本郵 便局長を辭したため、令弟 實氏(二十六回)が後任局長 として十一月一日磐崎村の 自宅にて永眠された。

和洋銅鐵金物商 釜屋商店 電話 九九番

吸入用酸素 純度 99% 藤沼醫院 電話五〇七番

高久病院 電話五二三番